



学びの ページ



「報^たじてても報^たじ難し」

今

回は、勤行で五つの御恩の
後に必ずお唱えする「報^たじ
ても報^たじ難し」について勉強して
いきましょう。

「報^たじてても報^たじ難し」を簡単な
言葉で言い換えると、「いくら返
しても返しきれない」となりま
す。こう言うと、「どうせ返しき
れないなら、最初から返さなくて
もいいの?」と勘違いしてしまう
かもしれませんが、決してそうい
う意味ではありません。この言葉
には、「どんなに感謝して恩返し
しても、決して返しきれるもの
はいくらも有り難い」という金
剛さまのご意図が込められてい
るのです。

たとえば、お母さんがあなたの
ためにお弁当を作ってくれる有
り難さに気がつく、今度はお弁
当を作るために朝早く起きてく
れたことに気がつきます。さらに

は、前もって食材を買ったり、献
立を考えたりにしてくれたことに
気がつくでしょう。ではその食材
が私たちの手元に届くまでに受
けた恩恵はどうでしょう。このよ
うに、一つの御恩に気がつく、
それと連動してさまざまな御恩
に気づくことができるのです。

しかし、私たちが気づける恩恵
も、氷山の一角に過ぎません。あ
なたが知らないところで、お父さ
んお母さんがどれだけのことを
してくれたのか、すべてを知ること
とは不可能です。父母の御恩がそ
うであるように、私たちが日々こ
の身に受けている御恩は計り知
れないほど大きく、到底返しきれ
るものではありません。

こうした御恩に気がつく人と、
気がつけない人の決定的な違い
は、「感恩」のアンテナを養って
いるかどうかです。日常生活の中

で頂くさまざまな御恩に気がつ
けるような感性を磨くために、ど
んなことでも有り難いと受け取
れる謙虚さを身につけることが
非常に大切です。

私たちがこれまでの人生で受
けてきたさまざまな恩恵は、経験
を積み重ねて物事の捉え方や考
え方が豊かになっていくほどに、
どんどん気がつきます。報いよう
とすればするほど、報いきれない
ほど広大無辺な有り難さに気が
つく。だから「報^たじてても報^たじ難し」
なのです。

次回からは、そんな報^たじ難い御
恩に報いるために、金剛さまがお
示しくださった人間として歩む
べき道「五常」について勉強して
いきましょう。

◎五つの御恩から一つを選んで、
具体的な恩恵をいくつ挙げら
れるか、皆で挑戦してみよう。